

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：32683

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K13408

研究課題名（和文）イデオロギー的分極化と政党内政治の国際比較

研究課題名（英文）comparing intra-party politics and ideological polarization

研究代表者

久保 浩樹（Kubo, Hiroki）

明治学院大学・法学部・准教授

研究者番号：40789559

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：政党システムのイデオロギー的分極化は、世界でどのように、なぜ異なっているのだろうか？アメリカのイデオロギー的分極化が深刻化し、政治に停滞をもたらしていることは広く知られている。しかし、分析対象をアメリカ一国に集中する一方で、比較の視野からアメリカの分極化を他国の分極化と国際比較する研究は皆無に等しかった。サーベイデータの計量分析の方法論的研究から左右のイデオロギー対立を国際比較可能な尺度で測定することにすでに成功した。この方法とデータを用いて、世界各国の分極化がどの程度異なり、アメリカの政党の分極化を世界の比較の中に位置付け、さらに分極化の程度の違いをもたらす要因も比較論的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

政党システムのイデオロギー的分極化は、世界各国で、どのように、なぜ、異なっているのだろうか？分極化とは、現代アメリカ政治において、民主党がリベラル化し、共和党が保守化することで、二大政党のイデオロギー的距離が拡大していく現象を表す言葉である。民主党と共和党のイデオロギー的対立の激化は、政治的妥協を困難にさせ、政策過程の停滞や政治不信の増大にもつながるとされている。アメリカの国内における政治対立の激化や政策の停滞は、日本を含む世界全体の国際政治に大きな影響を与える。それゆえに、アメリカの分極化の原因を解明することはアメリカの理解にも世界政治や日米関係の理解にも必要不可欠であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：What causes political polarization in the US? How does this polarization differ from polarization in the other countries? This project investigates what characterizes and causes party ideological polarization. In particular, I elucidate the multidimensional nature of ideological polarization and analyze which policy factors contribute to heightened ideological polarization in the cross-national context. For this purpose, we analyze the cross-national survey to clarify dimensionality and polarization. Specifically, I elaborate on the various concepts of ideology (left wing-right wing ideology and substantive policy issues) and describe how our choice of scaling method and empirical data affects our results. Comparing these ideological points allows me to specify which policies constitute political space and ideological polarization. This provides deep understanding of complexity in political space, dimensionality of political space, and seriousness of party ideological polarization.

研究分野：政治学

キーワード：分極化 イデオロギー 政党 比較政治 アメリカ政治 計量分析 議会研究 選挙研究

1. 研究開始当初の背景

私は、アメリカで PhD を取得する研究の最中から、政党間のイデオロギー的差異や、政党内部のイデオロギー的分裂、さらには有権者と政党の間のイデオロギー的政治代表の關係に一貫して関心を持ってきた。その過程で明らかになったことは、政治家がいかにして議会政党を組織化し、維持しているのか、という点を、計量分析と日米比較に基づいて考察した。とりわけ、1) そもそも議会政党内部の多様性は何に由来するのか、2) 議会政党内部の多様性や利害の対立を克服し、共通の行動を実現しているのかを分析した。方法論的には、アメリカ連邦議会の分析で用いられがちであった点呼投票に替えて、有権者サーベイや候補者サーベイの利用可能性を示した。また日米の制度的差異にもかかわらず、議会選挙の候補者の政策位置は、選挙区ごとの有権者の党派性やイデオロギー的分布、候補者の選挙の強さなどによって説明できることがわかった。

政党システムのイデオロギー的分極化は、世界各国で、どのように、なぜ、異なっているのだろうか？これが、本研究で解明する課題である。分極化 (polarization) とは、主として現代アメリカ政治において、民主党がリベラル化し、共和党が保守化することで、二大政党のイデオロギー的距離が拡大していく現象を表す言葉として用いられる。民主党と共和党のイデオロギー的対立の激化は、政治的妥協を困難にさせ、政策過程の停滞や政治不信の増大にもつながるとされている。アメリカの国内における政治対立の激化や政策の停滞は、日本を含む世界全体の国際政治に大きな影響を与える。それゆえに、アメリカの分極化の原因を解明することはアメリカの理解にも世界政治や日米関係の理解にも必要不可欠であると考えられる。

これまでアメリカの分極化については、日本でもアメリカでも数多くの研究者が研究に取り組んできた。(例えば、五十嵐・久保 2009; Gerber and Schickler 2016; McCarty, Poole, and Rosenthal 2016 などがあげられる。)しかしながら、既存のすべてのほとんどの研究は、アメリカ一国を集中的に取り上げ、分極化を特殊一国的な現象として、アメリカ一国のみを対象に理論的・統計的・歴史的に分析するものが大半であった。それに対し、アメリカの分極化を他国との比較の観点で分極化を論じたものはほとんど皆無である。(わずかな例外として、Dalton 2008 が試みている。)そこで、1) アメリカの分極化がどのように他国と異なっていて、どの程度国際比較の観点から深刻なのか？2) 分極化は世界各国でどのように異なっていて、その分極化の程度の違いは何によって生じるのか？という以上の二つの問いを比較の視座から明らかにしたい。

このことを踏まえた上で、日米比較をさらに多国間に拡張し、政党間(between)と政党内部(within)のイデオロギー的分裂がどのように作用しているのかに関心を持つに至った。選挙制度が政党システムや政党組織に影響を与えることは広く知られているが、さらにはその選挙制度内での政党の戦略的行動や組織的構造、目標までも踏まえて分析するのが、近年の政党研究の動向の一つの特徴であり、本研究でもそれらの動向を踏まえつつ、政党内部イデオロギー分裂と、政党のイデオロギー的分極化を分析したい。

2. 研究の目的

政党政治のイデオロギー的分極化という現象をアメリカも含めて国際比較をするのが本研究の最大の目標である。この課題の最大の難点は、左右のイデオロギー対立軸の意味付けや解釈が人により異なっている中で、どのようにして国際比較可能なイデオロギー的尺度を作り出して比較するのか？という点である。筆者はすでに海外の共同研究者と共に、有権者サーベイを用いて国際比較可能な、有権者のイデオロギー的位置の推定に成功した。

Carroll and Kubo 2018a では、国際的な有権者サーベイである Comparative Study of Electoral Systems (CSES) を用いて、先進国、発展途上国双方を含めた 40 カ国以上の政党と有権者のイデオロギーを国際比較可能なかたちで数量化し、さらに、各国の有権者の左右イデオロギーの認知バイアスの除去に成功し、その論文を *Electoral Studies* で発表し高い評価を受けた。本課題では、この分析結果をもとに、さらにこの研究を発展させ、政党と有権者それぞれの分極化の国際比較という課題にこの研究成果を応用する。

アメリカ政治が分極化していることは広く知られている。またその分析も日米の研究者が数多く行っている。しかしながら、アメリカの分極化が他国とどのように違っているのか？何が各国ごとの分極化の程度の違いをもたらすのか？という研究はほとんどない。その点で独創的である。本研究の最大の特徴は、比較政治とアメリカ政治の融合的研究であるという点である。アメリカ政治はアメリカ自体が巨大な国家であり、アメリカ政治分析自体が大きなディシプリンであったために、アメリカ政治分析と、多国間比較政治分析との交流が薄かったと思われる。本研究では、アメリカ政治を比較政治の一部として位置付け、アメリカ政治の知見を比較政治に拡張し、さらにアメリカ政治の理解にも役立つように、アメリカ政治と比較政治双方を分極化という共通の視点で分析した。このようなアプローチは未だに少なく、幅広い分野に貢献できる。

3. 研究の方法

政党システムのイデオロギー的分極化が、本研究の課題であるが、より具体的には1) 有権者のイデオロギー的分極化の国際比較、2) 政党のイデオロギー的立場の分極化の国際比較、3) アメリカの50の州レベルの分極化の地方政治比較、という三つの観点から、アメリカの分極化を「外」と「内」から分析する。前二者は、アメリカとアメリカ以外の国家との国際比較による分極化の分析である。具体的には、先述した多国間の有権者サーベイを用いた政党の分極化と有権者の分極化を従属変数とし、国家レベル、政党レベル、個人レベルという三つのレベルの要因という独立変数からエリートと有権者双方の分極化を分析し、アメリカをその中に位置付ける。このことにより、分極化が特定の国家や社会構造から生ずるのか、それともエリートや政党の行動、ないしは有権者や大衆レベルから生じる現象なのか、データから明らかにすることができる。

最後の三つ目として、アメリカ内部の州という地方政治の単位を比較する観点から分極化を明らかにする。上記の多国間比較の結果をもとに、アメリカの州・地方政治レベルの分極化も同様に分析し、アメリカ内部の分極化にも、比較政治の知見を応用して分析を深めたい。すでにKubo 2016では、下院議員のイデオロギー的分極化を分析したが、同様に上院、州知事、州議会議員など連邦と州の相互作用も含めてアメリカの地方政治の分極化を比較論的に考察したい。

本研究は多国間比較によるデータ分析という性質上、1) 海外との研究者との連携や共同作業を積極的に促進するとともに、2) 研究初年度でのデータセットの構築など研究の基盤を重視してこれを初期段階で達成する。1)については、すでにアメリカ、イギリス、台湾で共同研究を進める研究者と共に研究を進め、データ構築作業や分析作業の促進に役立っている。2)については、データの構築など時間がかかる作業は初年度に完成を急ぎ、2年目以降に分析や論文執筆に専念できる環境を整えたい。具体的には、政党の組織や選挙戦略、選挙区事情などのデータを院生を雇用することで収集することを企図している。

4. 研究成果

まずは正統システムに影響を与える大きな役割を果たすものとして、選挙制度を分析した。有権者と政治家・政党を結びつけるものが選挙であるが、選挙制度は有権者の票を議席に換算し、議会や代表のあり方を決定づける重要な政治制度である。本論文では、選挙制度を、多数代表制、比例代表制、混合選挙制に分類した上で、それぞれの特徴を多数派重視かコンセンサス重視かの視点で明らかにした。さらに選挙制度が、政党システムや政党組織、女性の政界進出といった記述的代表や有権者と政治家との政策的な一致や応答性に与える影響を明らかにした。

ついで、アメリカ政治を比較政治の視点から分析するべく、人民の多数派の意思を重視する多数決型民主主義と人民のできるだけ多くの意思を重視するコンセンサス型民主主義の二類型に基づき、アメリカ政治がどのように位置付けられるかを分析した。選挙制度や政党システムの次元では、小選挙区制や二大政党制を採用しており、その点では多数決型民主主義であるが、大統領制=権力分立制や連邦制という次元では、コンセンサス型民主主義を採用していることがわかった。結論として、分極化と二大政党間の対立が進むアメリカにおいて、権力分立制や連邦制によって、対立や分断が緩和されている可能性を指摘した。

また、政党システムの分極化を分析する前提として、政党システムの左右イデオロギーの複雑性を分析した。論文では、左右イデオロギーの複雑性を測定し、何によって説明されるかを検討した。多くの研究は、左右次元の左右イデオロギーの仮定に基づき、政党政治や選挙を分析しているが、本論文ではその仮定そのものを分析の対象とし、有権者の政党政治の左右イデオロギーの認知の複雑性を測定した。国際的な有権者サーベイであるCSESを用いて、有権者の政党の左右イデオロギー配置をBlackbox Transpose Scalingで分析し、それをもとに、有権者がどの程度左右イデオロギーを一次元あるいは多次元で認識しているかを明らかにした。国や地域別のばらつきを明らかにした上で、その決定要素として、イデオロギー的分極化や民主主義の経験の度合いが有権者の左右イデオロギーの複雑性や単純性に影響していることがわかった。

また、アメリカの州政府の政党政治とイデオロギー的分極化の関係を明らかにした一連の研究では、50州の数十年間にわたるデータを作成して分析した結果、分割政府が立法生産性の法案提出数の増加に影響を与えているものの、イデオロギー的分極化は必ずしも立法生産性に影響を与えず、むしろ上下両院の二院間の不一致が立法生産性に与える影響があることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 久保浩樹	4. 巻 111
2. 論文標題 ニクソン政権下の対外援助政策と連邦議 会、 1969 - 1974 年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学研究	6. 最初と最後の頁 139 - 168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hiroki Kubo	4. 巻 未定
2. 論文標題 Ministerial Selection under Abe, Suga, and Kishida	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan Decides 2021: Japan ' s Coronavirus Election	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Royce Carroll, Hiroki Kubo	4. 巻 71
2. 論文標題 Measuring and Explaining the Complexity of Left-Right Perceptions of Political Parties	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Electoral Studies	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.electstud.2021.102310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Hiroki Kubo, Tomoko Matsumoto and Kentaro Yamamoto	4. 巻 23 (3)
2. 論文標題 Party Switching and Policy Disagreement: Scaling Analysis of Experts' Judgment	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 254-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S1468109922000160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Does Intra-District Polarization Cause Party Polarization in Congress?
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Analyzing Ideological Dimensionality in British Party Polarization
3. 学会等名 日本選挙学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保浩樹
2. 発表標題 “The Sources of Party Loyalty: Explaining Intraparty Perceptions of Party Organization and Leadership”
3. 学会等名 日本政治学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 “The Sources of Party Loyalty: Explaining Intraparty Perceptions of Party Organization and Leadership”
3. 学会等名 The Annual Meeting of the American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保浩樹
2. 発表標題 アメリカの対外援助をめぐる点呼投票分析
3. 学会等名 日本比較政治学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Analyzing Ideological Dimensionality in British Party Polarization
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 明治学院大学法学部政治学科編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風行社	5. 総ページ数 38
3. 書名 「選挙制度と政治代表」『政治学の扉 言葉から考える 増補第2版』	

1. 著者名 明治学院大学法学部政治学科編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風行社	5. 総ページ数 30
3. 書名 「比較政治制度分析から見たアメリカ政治」『初めての政治学 増補第3版』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	エセックス大学			